

理科教育賞贈呈式をオンライン開催しました (9/17)

日産財団の理科教育助成は、日産自動車の生産拠点である福島、栃木、神奈川、福岡の4県の小中学校全35校に各校あたり70万円を助成し、先端的な理科授業の実践研究に取り組んでいただく事業です。去る9月17日には、この助成研究で優れた成果を上げた学校を讃え、成果を発表／共有化する場として「贈呈式」を実施しました。

今年は新型コロナウイルス感染防止に配慮しフルオンラインの実施となりましたが、事前の入念な準備の甲斐あって、従来のリアル式典同様の有意義な学びの場となりました。

理科教育大賞と各賞受賞の皆さん

今回「大賞」を受賞した学校は、栃木県下野市祇園小学校です。同校は、『主体的に学び、よく考えて課題解決ができる児童の育成～理科を軸に、書くことを通して～』を研究テーマとし、教師の指導力向上こそが学力向上の鍵であると考えて研究を進めました。2年の研究期間に100回を超える研究授業を実施し、子供たちが「論拠を示して書く」ためのノートの取り方（型）や指導法を確立しました。

下の写真の受賞校の皆さんも、素晴らしいオンラインプレゼンテーションをしてくださいました。



理科教育大賞  
副賞100万円

祇園小学校 秋山貴子校長 (左)  
と担当の熊倉悠気教諭

理科教育賞  
副賞50万円



神奈川県横浜市立  
南本宿小学校



福岡県北九州市立  
曾根東小学校



福島県いわき市立  
小名浜第三小学校

ポスターセッション賞  
副賞20万円



福島県いわき市立  
小名浜東小学校

リカジョ賞も同日贈呈しました

「リカジョ賞」とは、科学技術で産業を支えてくれる女性技術者や研究者を増やすために、女子児童・生徒の理科への興味・関心を高める活動を全国から募集し、優れた成果を上げた団体を表彰する事業です。

本年度は、昨年度18件を上回る28件の応募があり、函館工業高等専門学校・理系女子実験隊がグランプリに輝きました。同団体は、地域の小中学生への理工系の啓蒙・普及と、その指導役の女子学生自身の成長を目的とした活動に取り組みました。

次点として、女子中高生がキャリアパスを描くための支援活動を展開した、筑波大学と同志社大学が準グランプリを獲得しました。



リカジョ賞グランプリ  
副賞 20万円

函館高専の  
松永智子准教授 (左) と  
理系女子実験隊 三好 舞美さん



函館高専の発表テーマ

書籍「授業で語るこれからの理科教育」を出版しました

理科教育助成事業は2004年に始まり、今年で17年を数えます。この間、助成を受けて行われた実践研究の成果は、報告書として蓄積されるばかりでした。そこで、この貴重な知見をアカデミックな視点で整理・分析し、教育現場で活用できる実用書にまとめました。

執筆は、理科教育学会長など理科教育の要職を歴任された横浜国立大学名誉教授 森本信也先生にお願いし、1年半もの資料分析・取材・執筆期間を経て、このほど出版に至りました。この本は現在、全国書店とアマゾンなどネット通販で2,600円(税別)で販売しています。

今回の贈呈式において、この本の出版を祝して森本先生からご挨拶をいただき、助成校や教育委員会に無料配布しました。



授業で語る  
これからの  
理科教育

監修 公益財団法人 日産財団  
編者 森本信也

実践者の生の声から明らかになる  
子どもに響く  
教員の仕事の  
意義と楽しさ  
あふれる授業  
の現場  
ありのままの  
先生たちの  
リアルな声

科学技術で  
未来を拓く  
子どもたちのために

日産財団の普及啓発事業  
理科教育助成の成果書籍